食と農の価値を高め、地域社会に貢献する（株）萩原農園！！
～大豆菓子を名刺代わりに営農を展開する若き経営者～

株式会社 萩原農園
代表取締役 萩原 拓重（高畠町）

１　受賞者の概要

株式会社萩原農園は、現法人の前身となる農家として、曽祖父が昭和４年に糠野目地区で農業を始めてから、代々水稲を中心とした農業経営を行ってきた。

平成 28 年に父親から経営移譲された拓重氏がその２年に株式会社を設立し、代表取締役社長とし経営管理を務め、両親がアドバイザー、妹夫婦が従業員として経営参画する体制を整えた。経営移譲後 7.5ha の規模拡大を進め、水田 24ha で水稲と大豆の安定した生産を確立するとともに、契約栽培や加工品開発により付加価値の高い農業を展開している。

２　特色ある活動

(1) 水田フル活用による土地利用型作物中心の経営を実践

水田の利用として、主に水稲と、水稲との作業体系が合い反収が高い品目として大豆を導入。大豆の適期収穫を優先して水稲の栽培品種を導入。大豆は地元の納豆・味噌加工業者との契約栽培を基本とし、多収で高品質な大豆の生産により安定した収益があり、大豆菓子の加工販売も順調である。

(2) 高い栽培技術による高収量、高品質の実現

大豆は実需者（加工業者）との契約栽培が主体で、要望に応じて９品種を作付けしている。品種特性に合わせたほ場の選定、適期・適作業計画の策定と実施、播種準備から収穫期までのきめ細やかな栽培技術の積み重ねにより、「すずかおり」は過去３か年全量１等、単収は実収で約300kg/10ａと高品質、高収量を実現している。

(3) 自社商品の販売による付加価値化

生産した大豆を加工業者に委託し、自社商品として７種類の大豆菓子を製作し販売している。町内の直売所や県内の酒類卸販売業者、首都圏、ネット等の販路が拡大し、年間１万個を売り上げる人気商品となり、今や萩原農園の代名詞である。

(4) 地域青年層等のリーダーとして地域に貢献

代表者は、地元小学生を対象とした食農教育、教育旅行の受入れによる農村体験、町内小中学校の給食の食材提供等を行うなど地域に幅広く貢献している。

(5) 絶え間ない技術革新

農業経営支援システムやドローンの導入などＩｏＴを活用した農作物生育の見える化に取り組んでおり、農作業の効率化、コストダウンを図っている。

３　今後の発展方向

法人化して間もなく、急激に経営規模を拡大しているため、法人の経営基盤の強化に取り組む。技術革新、技術向上と共有化、コスト削減等により、社内の人材育成に力を入れていき、今後、水田の耕作受託の増加にも対応していく。